

これからも改革を！～兵庫県の財政～

県政トピックス

兵庫県の2018年度決算見込みが発表されました。皆さん、兵庫県の財政はいかなる状態かご存知でしょうか。答えは「ずいぶん持ち直したが予断は許さない状態」です。

県財政はそもそも、阪神・淡路大震災からの創作的復興により多大な財政負担が発生し、財政が壊滅的に悪化しました。現在では大規模災害の復旧・復興費用は国が負担しますが、当時はそのような制度がなく県が負担したのです。H11年度から行財政構造改革に着手、H20年度からは「新行革プラン」を策定して財政再建に取り組み、その結果2018年度決算において、収支均衡など8つの財政運営の目標を達成することが出来ました。震災以降の厳しい財政状況は、改革によりずいぶん持ち直してきたのです。

ただし予断は許さない状況です。例えば将来負担比率(将来の借金負担の重さ)は、震災関連を除くと全国平均水準ですが(県:256.6%、全国水準250%)、震災関連を含むと339.2%で47都道府県の中でもワーストクラスです。(ちなみに伊丹市は、公債費充当可能財源等が将来負担額を上回っている、つまり借金を支払える財源が見込めるため将来負担比率は該当なしのレベル)。しかもこの将来負担比率、豪雨災害の補修工事等や地震対策のブロック塀撤去等で県債(県の借金)支出が増加したこと、行革中に活用した財源対策債の償還(借金を返すために違うところから借金をしたものの返済)などで、前年度に比べ4.2ポイントも悪化しているのです。

県の財政は「節約生活を続けて持ち直したが、まだ借金多いなあ」というところ。

ではこれからどうするのか。①収入を増やす②支出を減らす③仕組みを変える、が基本です。特に②は、“10年も節約生活を続けてこれ以上減らせない”と聞きますが、新人議員の私は“そうかなあ”と。無駄なこと、非効率なことなれどメスが入っていないモノが多くあると捉えています。

これまでの行財政構造改革は成果を上げており評価しています。新人の新鮮な観点で声をあげ、さらに改革を進めてまいります。



いよいよ建て替え？～兵庫県庁～

県政トピックス

兵庫県庁、どこにあるかご存知でしょうか。なかなか行く機会がない県庁ですが、神戸の元町(JR・阪神「元町」駅から北へ徒歩約8分)にあります。

実はこの県庁、建て替えの議論が進んでいます。理由の1つ目は老朽化していること。1号館はS41年築、2号館はS45年築と老朽化が進んでいます。2つ目の理由は新耐震基準を満たしていないこと。阪神・淡路大震災で受けたダメージの補強工事はしていますが、耐震性能を示すIs値は0.30(1号館)・0.16(西館)で、これは防災拠点に求められる0.9、大規模地震に対する安全性基準である0.6を大きく下回っています。

そこで昨年から検討委員会で協議を重ね、この6月に「県庁舎等再整備基本構想」が策定されました。県庁舎ふくむ周辺一帯を再整備する構想です。県議会でも協議会を設置して検討を進めています。

- 場所:現在地にて建て替え
- 方針:①防災拠点の整備、②質の高い行政サービスの提供、
③県民の利便性向上、④兵庫の魅力発信、⑤地球環境への配慮
- スケジュール:2026年度 新庁舎スタート
- 経費:初期事業費 約500~540億円
維持経費 約180億円(70年間使用の場合)

現在の兵庫県庁
※兵庫県HPより

厳しい財政状況下ではあれど、築年数や耐震状況を鑑みるに、建て替えはやむなしかと捉えています。ただ留意すべきは、可能な限りのコスト縮減・県民意見の反映です。これから具体的な機能や周辺整備方針を検討する中で、財政状況を加味し、私たちの声を十分に活かしながら、適切な確な県庁舎等の再整備を議論してまいります。

